

第2回茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

- 1 会議の名称 第2回茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
- 2 開催日時 平成28年8月9日(火)午後2時～午後3時30分
- 3 開催場所 本庁舎前議会臨時庁舎 2階 全員協議会室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員
田中泉，村中均，原毅，相川三保子，保立武憲（代理），飯村健一，川島省二，
任田正史，小原規宏，出野清秀，小室万左子，大内康弘，鈴木誉志男，
蝦名不二夫，肥後良雄，島田久，平澤文子，石井藤一郎，吉成亘弘
 - (2) 執行機関
三宅正人，長谷川昌人，堀江博之，鈴木貴浩，高野裕一
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン（素案）に係る意見への対応等（案）について（公開）
 - (2) 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン（素案）修正版について（公開）
 - (3) その他（公開）
- 6 非公開の理由 適用なし
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 1人
- 8 会議資料の名称
 - 資料1 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン（素案）に係る意見への対応等（案）について
 - 参考資料① 茨城県央地域定住自立圏形成の主な経過と今後の取組
 - 参考資料② 定住自立圏連携事業の費用負担一覧（案）
 - 参考資料③ 共生ビジョン分野別事業費一覧表（案）
 - 資料2 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン（素案）

9 発言の内容

【執行機関】 定刻となりましたので、ただいまから、第2回茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。

本日は、御多用の折にも関わらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、初めに、高橋靖水戸市長より御挨拶申し上げます。

【市長】 県央地域首長懇話会の座長を務めさせていただいております、水戸市長の高橋でございます。第2回目となりました茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会に、大変お暑い中、御参加いただきましてありがとうございます。第1回目の会合のときに皆様に御挨拶できませんでしたこと、心からお詫び申し上げます。

皆様には常日頃からそれぞれの地域において、それぞれの立場でまちづくり、地域振興等に御尽力をいただいておりますこと、心からお礼と感謝を申し上げる次第であります。

私ども、茨城県央地域首長懇話会ではありますが、県央地域の振興、発展、福祉の向上等を目的にいたしまして、9市町村が協力をして広域的な連携の下にまちづくりを進めていこうという思いで、平成20年に首長懇話会を結成させていただきました。

東日本大震災直後におきましては、東海第二発電所の安全対策について様々な議論、協議をしながら活動、取組を進めてきたところでもありますけれども、本来的な私たちの仕事であります県央地域の振興、発展に資するような事業については、正直申し上げて過渡期を迎えており、首長の中からも、もっとダイナミックな取組をしていくべきではないかという意見も出ておりました。

それまでは、広域的な観光の連携、あるいは広域的な環境問題への取組というものをやらせていただきましたけれども、その間に、つくばエクスプレス周辺地域が発展をしていくということでありまして、ますます南北の格差が広がるということを、皆が懸念をしていたところでありました。

茨城県の当時の総務部長である福田さんを招いて講演をしていただいたときに、この定住自立圏形成の取組というもののお話をいただきました。その話を聞いている中で、これであるならば、今まで以上にダイナミックに広域連携の事業を進めることができるのではないかという皆さんの共通理解の下に、これまで2年間にわたって協議を進めてきたところでございます。

そして、水戸市が唯一中心市になれるものですから、昨年7月に中心市宣言をさせていただいて、また事務レベルでも協議をさせていただいたところでございます。そして、本年7月5日に水戸市と近隣の8市町村によって定住自立圏形成協定の協定締結式を行ったところでございます。

ここからは皆さん御存じのとおり公共交通の整備であるとか、医療の提供体制の充実であるとか、従来の観光、環境それぞれの取組であるとか、そういったものが盛り込まれているわけですが、これからより具体化、具現化していかなければなりません、その前に共生ビジョンをつくっていかねばなりません。

共生ビジョンの中身につきましては、政治レベルでの協議でつくりあげるといっても必要でありますけれども、市民感覚、住民感覚が求められるところがございますから、それぞれの市町村の住んでいる皆様に代表になっていただいて、それぞれの地域に対する思いをぶつけていただいて、より良い共生ビジョンをつくっていかうという思いで、皆様に委員をお願いしたところでございます。

3回という大変数が少ない状況ではありますが、議論は中身を濃くしていただいて、皆様には様々な御意見、御提言をいただければありがたいと思っております。今年には地方創生元年とも言われており、こういった連携というものも地方創生の中では非常に大切なこととわかれておりますけれども、地域間連携、政策間連携、民と官の協働というものを軸にしながら、共生ビジョンを策定して、定住自立圏の取組を更に充実させていきたいと思っておりますので、皆様にはきたんのない御意見をいただければと思っております。

____座長には御面倒をおかけいたしますが、最終的な取りまとめをお願い申し上げて、茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会が意義深いものとして終了することができますように、皆様の御協力と御支援をよろしくお願い申し上げます。私からのお礼の挨拶とさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

【執行機関】ありがとうございました。高橋市長は、次の公務があるため、ここで退席とさせていただきます。

(市長退室)

【執行機関】次に、議事に移らせていただきます。議事進行は、____座長をお願いしたいと存じます。____座長よろしくお願いいたします。

【座長】本日は、お暑い中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。議事を進めさせていただきたいと思っておりますが、議事に先立ちまして、本日、____委員が所用のため欠席、____委員は代理で____様が出席しておりますので、御報告申し上げます。また、本日の会議録署名人につきましては、____委員、____委員をお願いいたします。

本日、会議の傍聴を希望される方が1名お見えになっております。本会議は原則公開としており、入室いただきますので、御了承願います。

(傍聴人入室)

【座長】 それでは、議事に入ります。(1)「茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン(素案)に係る意見への対応等(案)について」、及び(2)「茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン(素案)について」は、関連いたしますので、事務局から一括して説明をお願いします。

(事務局 資料1, 参考資料①～③, 資料2に基づき説明)

【座長】 ただいま事務局から、共生ビジョン(素案)に係る意見への対応等(案)、及び共生ビジョン(素案)について、一括した説明がありました。まず、共生ビジョン(素案)に係る意見への対応等(案)について、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

前回の議事に関しての事務局からの対応ということですが、何か更に御質問、御意見等ございましたらお願いします。

それでは、もう1つの「茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン(素案)」は前回から改定されたバージョンでございますけれども、こちらについての御意見をお伺いして、もしその中でまた対応等についても御意見がございましたら戻って進めてまいりたいと思いますので、今一括して事務局から説明がありましたけれども、それについて御意見、御質問等ございましたらきいたのない御意見をお聞かせ願いたいと思います。

____委員どうぞ。

【____委員】 具体的になっていて、どの地域の話かということが分かりやすかったです。

前回お話をすればよかったのですが、1点気になるところがありまして、共生ビジョンの2ページ、(1)目的のところ「定住に必要な生活機能の確保・充実を図るとともに」と書いてあり、ここがビジョンの中心になってくると思うのですが、最初に核となるこの部分を定義したほうがよい気がするのです。このビジョンの中で、定住に必要な生活機能の確保・充実はどのように捉えているのかということがないと、将来像が連なってこないのではないかと思うのです。定住に必要な生活機能をどう捉えるかというのが各地域によって異なっていたり、まちや圏域によって違っていたりして、これをどう定義するかが、まちや圏域の将来像を決めていくようなビジョンに反映されてくると思うのです。

事業が決まって、それをどのように並び替えるかという作業が難しいかもしれないのですが、分かりやすく言いますと、25ページにあるような図が最初に出てきて、全体像が一目でつかめるようにしたほうが良いような気がします。

それぞれ委員の皆様によって定住に必要な生活機能というのは捉え方が違ってくると思うのですが、この会議として、ビジョンとしての生活機能というものをどう捉えているのかというところを、最初のほうで(1)の下に、例えば(2)で、定住に必要な生活機能とはというようなものがあって、(3)の計画期間があったほうが分かりやすいのではないかと思います。

そういう意味で、前回、公共施設の利用はライフスタイルに直結するのですかとかお聞きしたのですけれども、なんとなく流れが難しいと思うのです。先に事業ができていく感じがして、その後に生活機能を定義していくのは難しいと思うのですけれども、読んでいる側として、あるいは市民の側として、そのあたりがあったほうがよい気がします。

【座長】先ほど、定住に必要な生活機能の確保・充実は地域によって異なるとおっしゃったのですけれども、それは様々なところで定住自立圏があって、定住自立圏ごとで異なるのか、1つの自立圏の中で異なるということなのですか。

【委員】これまでではなく、これからをどう捉えていくのかということが、地域によって違ってきていると思うのです。地域として、圏域としてどう捉えていって、まずはどれに手を付けていくかということによって、地域の独自性が出てくると思いますし、地方創生の部分で求められているところかなという気はします。

【座長】この自立圏の他の地域とのすみ分けですか。

【委員】無理してすみ分けをする必要はないのですけれども、これからをどう捉えていくかということだと思います。地方創生に関しても、これまでやってきたことが行き詰まってきている部分があるわけで、そこを捉え直さなければいけないと思うのです。

例えば、私の専門分野の観光のまちづくりだと、先ほど触れなかったのですが、観光と環境の結び付きをという御指摘があったように、これはまさに私の専門分野でも環境と観光と生活の結び付きをということが言われ始めていて、まちづくりに関してそういった表現も含めてですけれども、そこは飛躍してしまうので今回は指摘しませんが、将来像を描き出す上で、生活機能というものをどう捉えていくのかというビジョンを明確にしていかなければいけないのかなという気がします。

【座長】将来に向けた生活機能ということですね。似たようなところで御意見はございますでしょうか。

____委員，どうぞ。

【____委員】今，____委員から御意見があったところで，環境，観光と暮らし，ライフスタイルを結び付けるような取組にシフトしつつあるとおっしゃっていましたが，ほんとうにそのとおりだと思います。

私は環境の委員として推薦されてこちらにおります。まず，共生ビジョンの具体的取組に低炭素社会の実現を目指した取組の推進とあります。この低炭素社会の実現を目指すというのは，ずっとやってきているのです。今更始めるものでもないですし，ここにお金をかけるものでもないと個人的に思っていますし，自分自身で企業人としてあるいは個人として取り組んでいる中でも，ここからは卒業するべきだと思っています。

低炭素社会ではなくて循環型社会ですとか，持続可能という言葉がなかなか結び付きにくいかもしれませんが，低炭素というと省エネや省資源で終わってしまうのです。環境の中で，低炭素というのは本当に一部であり，もっと大きなエコという言葉を使えば，省エネや省資源というくくりではなくて，もっと大きな生態系や全体的な循環というところで考えていかないと何も始まらない。

今のライフスタイル，事業スタイル，政治的な取組を進めていけば，間違いなく炭素排出量は多くなるばかりです。莫大なお金をかけても何も進まないですし，これはだめだという問題提起では何も始まらないので，せっかく定住自立圏のビジョンをつくるということであれば，新たなキーワード，皆さんの分かりやすいもの，目の前にあるものを壊さずに使っていくこと，きちんと循環させること，これは自然資源もそうですし，ヒューマン・リソースもそうですし，お金も同じだと思うのです。

環境から広がってしまっていますが，エコライフチャレンジですとか環境啓発イベントの相互参加，前回言えばよかったと反省しておりますが，もう少し低炭素から発展させた取組にしていかなければいけないような気がします。

____委員がおっしゃったように，自分たちの命というのは，自然環境があつてこそ命がつながることであつて，経済活動も自然資源があつてこそできるということを，組織の中で働いている多くの人たちはリアルに感じていないのですが，現実はこの基盤が崩れ去っているのです，ここに気付いていたかどうかのような取組をここから始めませんかと思いました。

【座長】ありがとうございます。ビジョンですから，現在やっているところというより，むしろ未来に向けた視点ということでしょうか。それを少し強調したほうがよいということでしょうか。具体的には生態系まで含めた，もう少し広い環境も取扱うということでしょうか。

【____委員】低炭素社会の実現というところから卒業しましょうということですか。

【座長】事務局，簡単にお答えできないかもしれませんが，何かございましたらお願いいたします。

【執行機関】確かに，低炭素社会の実現を目指した取組というのはこれまで行ってきたものではありませんが，仮に，循環型社会というテーマにした場合に，事務的な手続になりますが，こちらについては，参考資料②を御覧いただきたいと思います。参考資料②の中で8施策と書いてあると思います。その隣に20事業がございますが，8施策については協定の内容でそれぞれの議会で議決をいただいた取組の内容となっております。20事業については，議決をいただかないものになりますので，この部分は修正等を図ることはできるのですが，8施策を変更する場合には，また新たに議会の議決が必要になります。

平成29年度からの定住自立圏の取組を目指している中で，6月議会でそれぞれの議決をいただいたばかりですので，必要があれば協議をさせていただきますが，少なくとも1年間は内容について変更することは難しいところでございます。

【座長】事務局から施策（1）から（8）までは各市町村の議会の議決を経ているので，ここを変えることは手続上難しいということでしたが，具体的な事業内容についてはある程度変えられるということで，具体的な事業内容の中で少しずつ織り込んでいき，将来的には可能だということ解釈してよろしいでしょうか。

【___委員】5か年計画ということで，今年度は難しいということですが，来年度の変更は可能でしょうか。

【執行機関】協議を進めていく中で，低炭素社会の実現の他に，循環型社会がよいのか，追加するのか，若しくは文言の修正をするということであれば，議会の議決を再度いただき変更することは可能でございます。

【___委員】プロセスがあるかと思しますので，将来的には変更していったほうがよいのではないかと思うのですけれども，環境分野の委員である___委員，___名委員いかがでしょうか。

【___委員】___委員や___委員がおっしゃるとおりだと思うのですが，9市町村が一斉に始まらなければならないという部分については，平成29年度からのスタートは非常に厳しいのかなと理解しております。

第1回目の懇談会の後，環境課や事務局といろいろ話し合っておりますけれども，こちらに参加されている9市町村の環境の部門，または企画部門の方がどのようにエコツーリズムを考えていくのかという部分が，数年後には定住自立圏の核になってくるのだろうと考えております。

共生ビジョンの4ページを見ていただくと，それぞれの市町村のPRが載っておりますが，こちらに病院や交通ということはあまり入っておらず，それぞれの市町村の良い所，自然や環境というPRしたいところが載っている

のです。

実際に9市町村の中で、エコツーリズムを実施している市町村はいくつかございますので、ターゲットにして定住、更に移住を推進するという、一致団結を図りながら、平成29年度以降の実現に向け、それぞれの議会で通過させていくという取組をお願いしたいと思っています。

【座長】エコツーリズムというキーワードが出てきましたけれども、将来的に織り込んでいってはどうかということでした。

____委員どうぞ。

【____委員】御指摘の内容はそのとおりだと思うのですが、全国の定住自立圏構想を調べてみますと、最初に出てきましたのが地球温暖化対策という項目でした。その次に出てきましたのが低炭素社会です。そして、最近少し出始めたのが____委員がおっしゃったようなキーワードです。

確かに、持続可能な循環型社会というのは今後の大きなキーワードになっていくと思いますが、今回は骨子ができていますので、平成30年度に向けて、そのあたりを取り入れて少しずつ変えていって、先ほど私の述べた意見としまして、地域に定住したくなるようなファクターとして、そういう観点から何を持ってくるかというようにしたらよいのかと思いますので、今回は慌てないで、意見を詰めて平成30年度のプランにもっていってはどうなのかという気がしております。

【座長】今回は政策については決まっておりますので、来年度の5か年計画の中で少しずつシフトして、あるいは修正していくということが可能かどうかを探っていこうという御意見だったと思います。

____委員どうぞ。

【____委員】共生ビジョンの12ページに、医療施設の図表が何点かお示しされていて、気付かなかったのですが、紙面の制限があり、すべては難しいかと思いますが、ここに住民が安心してということと、少子・超高齢社会というところを見れば、出産がきちんとできているのか。茨城県では出産難民という言葉があり、県北や鹿行では分娩できる場所が少なくなっておりますので、少子化を支えるという意味では、分娩施設がどうなのかというところが必要ではないかというところが1点です。

それから、多死社会を迎えることになっておりますので、そこに、在宅医療の診療所、訪問看護ステーション、看取りをどういうふうにして、この地域では看取っていくのか、自宅ですとか様々な所で、水戸地区は、恵まれているところと手を差し伸べなければいけないところの格差が市町村の中でも見え隠れしておりますので、そのあたりを整える対応が必要ではないかなと感じました。

【座長】事務局、お願いします。

【執行機関】訪問看護ステーション等のデータについて必要ではないかという御意見だったと思いますが、医療の状況で足りないということであれば必要に応じてデータ等を追加してまいりたいと考えております。

【座長】出産と看取りという、人生の最初と最後であるところを、どのようにしていくかという将来像というのは、先ほど____委員がおっしゃった将来に向けたビジョンをどうしていくか、どういうところが住みやすいまちなのかといったところの概念設定が、考えていく上で重要なファクターになってくるのかと思いますけれども、現段階でこれをそのまま変えるというのは難しいとは思いますが、少しずつ修正していきながらということを進めていくことになるかと思っております。

今までは総論と、観光、医療、環境といったものが話題に挙がったのですが、福祉、教育、地域公共交通関係で何か御意見を承ればありがたいのですが、御意見ございますでしょうか。

それでは、福祉関係はいかがでしょう。前回、成年後見について話題になりまして、それについて事務局から御対応がありましたが、それについて新たに御意見、御質問等ございましたらお願いしたいと思っております。

____委員どうぞ。

【____委員】私は福祉の分野ですが、その内容とは少し違うのですが、全体的なビジョンをこれから5年間計画を立てて行っていく中で、今回事務局でつくった対応表の、____委員が前回発言していただいたところで、将来像を実現していくためには進行管理と適正な評価というものが大切になってくるのではないかと、このあたりについて、私も非常に大切なのかなと思っております。

実際の進行管理の体制であったり、実際の評価体制、事業の効果測定をしたり、評価をしていくということですが、評価の仕方についても事務局としては数的な指標も大事ですが、当然、定量的な評価も大切なのですが、福祉に関しては成年後見制度がテーマになっていて、一人一人の支援、人というところなので、数で測れないところが非常に多く、質的な評価というものを加えていただくことが非常に大切になってくるのかなというところで、これから検討ということになってくるかもしれませんが、評価体制、進行管理体制については、体制を整えていく必要があるのではないかと、具体的にあればお聞かせ願いたいと思っております。

【座長】進行管理、評価についてどのような体制があるのかという御質問がありましたが、事務局から御返答をいただけますでしょうか。

【執行機関】今後の進行管理の体制については、それぞれの分野の部会、資料裏面に書いてあります定住自立圏の取組分野における部会において内容、進捗等について協議をしていくのを始め、県央地域首長懇話会、定住自立圏共生ビジ

ョン懇談会，県央地域首長懇話会担当部署会議，この4つで適切な進行管理を行ってまいりたいと考えております。

また，成果指標につきましても，定量的なものもあれば，分野の事業ごとに，それぞれの実情もございますので，質的な面も含めまして部会等でより検討してまいりたいと考えております。

【座長】 それでは，まだ話題に挙がっていないのが地域公共交通関係でございますが，____委員お願いいたします。

【____委員】 全体的な話になるのかもしれませんが，全体の事業費が年間で1億2,000万円くらいでして，これだけ広い分野をカバーするとすると，決して少ない金額であるのですけれども，十分な金額とも思えません。おそらくパイロット的な事業にしか使えない金額だと思うのですけれども，全体的に広げていって，しっかりとした成果を出していくには，これに付随する各市町村の予算が付いていかないと，パイロット的なものだけで終わってしまいかねない気がしますので，そこを各市町村で政策を補完するような形にならないと厳しいかなと思います。

公共交通の予算規模を見ても，2,500万円という金額は割合の高い金額ですが，これくらいの規模ですと，今までのパターンでいくと20kmくらいの距離を4往復するバス路線を2路線くらいの規模なのです。

それで公共交通がエリアの中で網羅的になるかと言いますと，決してそうではありません。各自治体の中でそれぞれの優先順位があると思うのですけれども，全体として効果を出していくには，これをもっと補完するような予算の規模が必要ではないかと思います。

【座長】 今の発言に関連して，御意見，御質問等ございますでしょうか。____委員どうぞ。

【____委員】 資料を見ると，この事業というのは現に実施している事業や緊急に対応する事業を羅列してあるだけなのです。将来を見据えて，これからの課題をどう考えるかという視点が抜けているのです。

事務局の意見を聞くと早急にやらなくてはいけないので，このような整理をさせてもらいましたということで，それならばよいでしょう。

そうすると，このテーマは共生ビジョンとっているのですが，将来との関係が出てこないのです。23,24ページにかけて圏域の将来像が出てきます。先ほどお話があった，循環型社会ですとか，いろいろと委員の皆様から出てくるような意見をここに反映させて，将来の課題として把握をしていかないとビジョンにならないです。単に目先の事業を書いて，この事業をやらせてくださいと言っているだけなのです。

ですので，委員から出てきた意見を整理し，圏域の将来像の中に押さえていって，当面5年間でこの事業をやりますという整理を行えば，委員の皆様

の意見を落としていけるという気がするのですが、いかがでしょうか。

【座長】先ほどから課題になっている、____委員がおっしゃったビジョンと言いながら将来像が見えないというところに議論がおさまっていくということでしょうか。

例えば、前は公共交通に関しては、結節点やハブのような機能を持ったという新たな将来という意見が出たのですけれども、実際の事業は今やっている事業をどう継続していくかということが中心となっているという御指摘がありましたけれども、せめて将来像をビジョンの中にあってそれを見据えてやっているのだというような書き方をすれば将来につながっていくのではないかと御意見だったと思いますけれども、それについていかがでしょうか。付け加えることや御意見等がございましたらお聞きしたいと思います。

ビジョンの加筆ということになるかもしれませんが、事務局いかがでしょうか。

【執行機関】圏域の将来像とその先の7つの取組のイメージ図の論理のつながりが不十分ではないかということだと思いますので、そちらにつきましては事務局で整理させていただきまして、必要に応じて修正させていただきたいと思えます。

【座長】関連したことでも結構ですし、関連しないものでも結構でございますが、何か御意見、御質問ございましたらお願いいたします。

____委員どうぞ。

【____委員】観光や産業観光の取組の中で、茨城県の中で、今、ひたちなか市は国営ひたち海浜公園で新しいイベントをやっています。それから、笠間市や水戸市には歴史観光があります。

観光客は長い時間滞在せず、おいしいところ取りをしているのです。この中で今の観光に対する、市町村の中でこれからの将来像が何なのかという共通の考え方を深めてもよいのではないのでしょうか。

例えば、歴史の中に共通のものがあるならば、磨いて宝物にします。物語をつくって商品を開発する。こういう考え方はあまりないのではないかと思います。

どこのまちも売れるものをお土産にします。産業があるからつくってお土産にする。おいしいものがあるからということではないのです。

具体的に言うのなら、水戸藩や笠間藩の歴史の中で一生懸命蘭学を学んだ人がいます。ひたちなか市では江戸末期に蘭学を学んだだけで反射炉や純国産の大砲をつくりました。そういうものの中でどういう学者がいて、どういうことをしたのかと。ひたちなか市の場合は港をつくったときに、オランダの政府お抱えの人間が来て、港湾をつくりました。

そういうものの中で、地域の中で探してそれを観光にします。旧水戸藩の中には那珂市もありますし、そういう意味で、そのような「もの」を考える観光、頭の中で考えて、それを想像してものをつくる。

水戸藩は歴史の中では大変なことをしたところです。特に、徳川斉昭は新しいもの好きでして、いろいろやっています。

私は共通したもののの中で、歴史というキーワードでやるとか、そういうことを想像したり、ものをつくったり、将来必要かなと思います。

単にものがあるから売ってしまうということは表面的なものですけれども、ここから歴史を紐といて共通点を挙げ、たくさん磨く訓練をします。どんなまちにも良いものは探せばあるのです。探さないことが多いので、探す努力として、市町村の中で共通のものをチームワークで考える、物語をつくる、そういうことも新しい将来像の考えとしては必要かなと思います。

【座長】 ____ 委員どうぞ。

【 ____ 委員】笠間市の観光についてですが、観光客が大分来るようになっているので、観光資源、観光サービス、観光イベントのブランド化、あるいは、質の向上というものを、できたら次に入れていただきたいと思います。もうそろそろそういう段階に来ているのかなという気がしていますし、特に、中国からの観光客が増えた場合、ブランドに弱いのです。

水戸黄門が三つ星を出すのかはその先の話かと思いますが、先ほど御指摘があったように、売れるものや良いものは出ていると思うのですけれども、発掘も含めてブランド化、あるいは質の向上、観光資源、観光サービス、観光イベントは笠間を含めて多いのですが、ブランド化していくことがこれからの課題になっていくのではないかと考えています。

【座長】現状というよりは、もう少し長期的な視野でもってということだと思います。そういったことを織り込んでいってはどうかということでした。

具体的には歴史を軸とした共通の観光資源を探し出すとか、それをブランド化していくという視点を織り込むべきではないかという御意見だったと思います。

____ 委員どうぞ。

【 ____ 委員】今ブランド化のお話がありましたが、ブランド化というのは、観光の中の大切なことで、ブランドというのは、商品は何でもブランド化なのです。ブランド化にはデザイン力がないと駄目なのです。デザイン力を上げるとか、その地域のもの格を上げる。良いものをつくっても、デザイン力が悪くてはどうしようもないこともあるのです。そういうものにデザイン力を応援することも必要なかなと思いますし、一つ一つの質を高める必要があります。

ひたちなか市にはテクノセンターや筑波大学にデザインをやっていただいで、工業とかほんの一部ですけれども、観光という意味で応援団になる。デ

ザインにはお金がかかるという意識がまだ低いのかなと思います。

ひたちなか市の職員の方は良いデザインをするのです。でも、私が見たら70点なのです。私は90点から100点のものをつくらなくては駄目ですと言っています。市の職員の中では100点でも、全体の社会の中のデザイン力では60点なのです。そういう意味で、各市町村が高度なものを応援する必要があります。

【座長】 ____委員どうぞ。

【 ____委員】 観光地のあるところの話が出ておりましたが、小美玉市には北の玄関口である茨城空港があるということで、最近では旅行者の旅のスタイル、パターンが年々変化しているかと思っています。

そういう中で、これといった観光地を持たない小美玉市といたしましては、最近では旅行者のニーズが変わっておりまして、観光地以外を見てみたいというような情報を把握しております。

そういう中で、地域の生活や文化を体験し、住民との交流を楽しみにしているという旅行者も多くなっております。滞在交流型ということになりますけれども、やはり我々もこれからは滞在交流型のアグリツーリズムを目指したいという考えがあります。

それにはひとつ、その場限りではなくて小美玉市に行ってみみたいというリピーターを増やしたいという考えを持っております。

ぜひとも計画の中に、観光地のない地域住民との交流を検討していただければと思います。

【座長】 観光については、様々なキーワードが出てきたと思いますけれども、いずれも従来型の観光ではなく、これからの観光の新しい姿を盛り込んでいくべきではないかという御意見だったと思います。

____委員どうぞ。

【 ____委員】 ____委員がおっしゃったように、県央地区で観光地として知名度がないところもたくさんあるということで、そういうところを一体どうするのかという話だと思うのですが、他の地域と比べて特色があるものは一体何かと考えて意見を出させていただいたのですが、特に、具体的な部分は、ゴルフ場が多いですとか、酒蔵が多いという部分を、先ほどの ____委員のお話ではありませんが、ブランド化するためにどうしたらよいのか考えていかなければならないと思います。

ただ単に、ゴルフ場が多いということではアピールにはならないので、ゴルフ場の人たちが集まってアジアに向けてアピールするとか、茨城のゴルフ場でコンペをやっていただくとか、そういう部分で観光にインバウンドを成功させていったらいいのではないかと思います。

新潟に家族旅行に行ったときに、越後湯沢駅に蛇口がありまして、新潟のお酒を試飲できるコーナーがございました。とても感動しました。新潟のお酒が一堂に会して、そして試飲ができるのです。もちろんお金は払うのですが、これもかなり儲かるなと思いました。

そういうところを茨城空港の中に設置して、広くアジアの方に試飲できるようなコーナーをつくってみたり、あるいは、水戸駅にそういうコーナーをつくったりしてはどうでしょうか。

新潟のお酒はブランド化されていますけれども、茨城のお酒はいまひとつではないかなと思います。しかし、茨城県は酒蔵が多いのです。そういうところを観光のブランド化につなげていったらよいのではないかと思いました。特別何がなくとも、考えれば出るのではないかという部分が1つです。

それから公共交通の話ですけれども、各自治体の皆さんにタクシーを使っただけのために、従来のタクシーのビジネスモデルというのは、そんな高い物には乗れない、日常生活では使えないと言われてきましたけれども、どうやったら使っただけなのか、タクシーがどう変われば自治体のニーズに合ってくるのか、そういうことを茨城県ハイヤー・タクシー協会の役員一同、御意見を聞きに回りたいと思っております。そういう中から地域公共交通の一翼を担えればというように考えております。

【座長】 ____委員どうぞ。

【 ____委員】資料1の6ページに、「インバウンド観光の実施内容について検討してまいりたいと考えております」と書かれているのですが、共生ビジョンの39ページの今後の観光マーケティングですとか、県央地域の魅力発信事業とか、おそらくインバウンドのことも考えていかなければいけないことだと思うのですが、特に、文言には触れられていません。

例えば、取組方針に「圏域における観光客の動態を把握し、的確なターゲットティングの下」の「的確なターゲットティングの下」のところにインバウンドや外国人というのが入ってくるのかと思うのですが、インバウンドを含めたとかという形で、今書かれているものと日本人向けなのかなという感じがしますので、そういったことも文言に入れていただくと、委員の方々の話も事業につながっていくのではないかと思います。

【座長】 ____委員どうぞ。

【 ____委員】前回、環境からもう少し広げまして、人材育成のところで意見をさせていただいているのですが、この共生ビジョン(素案)のサブテーマとして「～安心して住み続けられる、ひとが笑顔で行き交う圏域を目指して～」とあります。

皆様の意見、あるいは、施策の中の後半に、ひとが笑顔で行き交う圏域を目指してというのは割と活発に意見が出ていると思うのですが、安心して住

み続けられるというところがもっと大事なのではないかなと思っておりまして、そのときに、前回の意見につながる部分なのですけれども、安心や住んでいくための、暮らしていくための生業というのは、誰か他の人がつくってくれるわけではないですよ。自分たちや自分の仲間、地域の人たちがつくっていくものだと思うのです。

そして、生業、稼ぎというところも、今の現代社会ですと、多くの割合の人がサラリーをもらって暮らしている人がほとんどですが、おそらくこれはどこかのタイミングでこのバランスが崩れていくと思うのです。

そうすると、この県央地区にある環境、観光といった今あるものを使って経済性を持たせていく必要が出てくると思うのですが、そういったところの人をつくる、健康もそうだと思うのですが、人頼りになってしまっているところがあると思うので、これからの社会をつくっていくためには、自分たちで考えて現状はどうなのか、課題はどうなのか、これからどうするのかということをしっかり考えていく仕組みをつくっていかねばいけないと思います。

これを国や県という大きなくくりでどうするのですかというとなかなか難しいのです。また、自治体独自でも難しいので、この県央地域というようなくくりでやっていくと規模的にはちょうどよいのではないかなと思っておりました。

具体的な例が挙げられず大変恐縮なのですが、誰かがやってくれる、与えてくれる、安心や安全、給料や生業ではなくて、自分たちでつくっていくという、ものを考える、育てる、教育する仕組みというのを本気で考えていかないと、茨城県はだめになってしまいます。

私は茨城町なのですが、農業は基幹産業ですけれども、農業人口は激減しています。水戸市やそれ以外の市町村それぞれに環境資源、観光資源がありますけれども、本当の基盤はこれがなくなったら絶対だめだというものは何かと考えたときに、食べることや環境とともにあるものとどのように暮らしていくのかということもなくしては、おそらく持続可能にならないと思うので、そこをビジョンの中に入れていただきたいと考えます。

【座長】 ___委員より、前回のところでも出てきました人材育成、主体的にまちづくりや地域をどのようにつくっていくかということでした。

人材育成というのは、市町村の人材育成だけではなくて、もう少し広い意味での教育にかかってくるのでしょうか。

【___委員】メインになるのは学校教育になってくるのかなと思うのですが、社会人教育もそうですし、そういった持続可能というキーワードを考えられる子どもたちを育成するための学校の中での教育と、企業、地域、そして行政の職員もそうですし、そういった視点で議論をしていけるような仕組みをつく

っていきましょう。

【座長】人材育成を狭く考えるなということでしょうか。もう少し広い意味で、教育を含めた形で子どもたちだけではないですし、私たち一人一人、住民一人一人ということも含めてということに理解してよろしいでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】医療の将来像は決して明るくはないのですけれども、それ以下にならないようにということで、今、小児科や救急の休日夜間緊急診療所を運営しておりますけれども、人手不足でして、大学病院と連携を図りながら医師の確保に努めております。今後、休日診療所に関しては大学病院と連携をつなげて強化をしていくというような文言で将来に少しでも明るい素材を見いだすような文章を入れていただければと思います。

2025年になりますと、団塊の世代が75歳を超えるので、我々の業界では地域包括ケアが始まるのですけれども、そういう意味では開業医が多いので、地域包括ケアシステムの構築に向けて、それぞれの市町村が、または広域的に、連携体制に取り組み始めているので、更に安心して高齢になっても医療体制を供給する方向で進んでいるので、明るい雰囲気の中で安心して暮らせるのだなというような文言を入れていただければと思います。我々はそれに向けて努力していきます。

【座長】今回は現状の問題点をおっしゃっていただいたと思うのですけれども、将来に向けて、現状の課題をどう解決していくかという明るい面も入れていくべきだという御指摘だったと思います。関連した御質問はございますでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】今の____委員の話にプラスアルファということで、今回のビジョンの中の7つの取組に医療福祉は入っておりますけれども、看護の立場から言わせていただきますと、病気にならないための健康の保持・増進というところにも安全に暮らすというのは、健康であってそこに成り立っていくものでもあるかなと思いますので、この柱、骨組みは動いていくということなのですが、病気になった人をどうするのか以前に、病気にならないための、先ほど____委員がおっしゃったように、住民教育というところで市町村がどれくらい健康な方々に関わっていったら、その方々にやる気を持たせるかというようなところも今後何かの機会がありましたら、ぜひともプラスしていただければよいのではないかと思います。

【座長】病気になる前に、いかに健康を保持するかという視点も教育と絡めて強調するべきではないかという御意見でした。

____委員どうぞ。

【___委員】教育という面から考えて、今まで成年後見事業というのは誰か専門家がやればよいという考え方があったようですが、これからは市民にも知っていただいて、見守っていくということで、地道な教育活動が必要になってくるかなと思います。そういうことで、地域住民と一緒に考えていければという立場で、社会福祉協議会としてはPRしていきたいと考えております。

話は飛躍しますが、観光という意味で前回どなたかが発言されたかと思いますが、茨城県、栃木県、群馬県は全国的に認知度が低く、茨城県は魅力度が最下位だということで話題になっておりますが、考えてみれば茨城県はある程度豊かで、所得もあり、今までPRする必要がなかったと個人としては思っていますが、これからはそうはいかなくて、茨城県が最下位だからということでがっかりすることなく、知ってもらおうという意味で地道なPRが必要になってくるのかなというように個人的に考えております。

【座長】そろそろお時間ですが、御意見、御質問等ございますでしょうか。
___委員どうぞ。

【___委員】共生ビジョン6ページの城里町の写真は差替えになるのでしょうか。

【執行機関】データをいただいておりますので、次回までに差替えいたします。

【座長】他に何か御質問ございますでしょうか。
___委員どうぞ。

【___委員】将来はどうするのか、今やっている問題点をどう解決するのか、これは大きなくくりかと思えます。

私は何でも欲しいほうなのですがすけれども、ないものねだりをするよりも、この中で、先ほどどなたかがおっしゃったように、県でやると大変だけれども、小さなところでやれば解決できる問題、先ほどの観光のことですけれども、観光資源は探せばあるのです。ないことはないのです。

そういうものは、周りで見ている人のほうがよく分かるということで、地域で勉強会をするとか、意外に地域の中で考えたほうが見つかることはあるのです。自分のところでは分からないことも、よそでは分かるということもあるのです。お互いに提言をしてみたり、地域間で共有したりすることによって解決できることとか、そういうことを探すのも必要ではないかと思えます。

私は観光に特化してしまっただけで申し訳ないのですが、考え方はここでできるものを提言して、まとめるというように思っております。

【___委員】各委員の総括的な面になると思えますけれども、地域コーディネーターには、非常に有能な方がたくさんいると思えますが、観光面、環境面、それから地域のまちおこし、食文化、そういう方が一堂に集まってコーディネートを考えるというような機会がなかなかないのです。

それに、行政の考え方がそれぞれ縦割りになっていたり、連携を取ろうとしてもうまくいかないのです。53ページの最後の「職員の能力向上に向けた

研修会の合同開催及び相互参加」それぞれの市町村がやるときに、各市町村の担当が集まってやりましょうと書いてあるのですけれども、行政の方々は異動してしまうとそれきりというケースがございます。

平成 33 年度までの事業をやりながら、地域のコーディネーターを養成するようなことを見据えた研修を位置付けられれば一番よいのかなと思います。行政と市民と観光、環境、地域社会、文化、歴史をつなぐためのコーディネーターが市町村担当と一緒に勉強しながら、これを醸成させるようなビジョンになっていけば一番望ましいのかなと思いました。そういうものをぜひ入れていただきたいということです。市町村の担当者だけではなく、これに一般市民も参加しながら醸成していくような考えで、位置付けはいかがかなと思いました。

【座長】ここまでについて事務局で何かございましたら、お願いいたします。

【執行機関】資料の訂正をお願いしたいと思います。参考資料①、2 ページの今後の予定のところ、9 月 4 日からパブリックコメントと書いてありますが、9 月 5 日から 10 月 4 日までということで、訂正をお願いいたします。

【座長】他に御意見等がなければ、(1)「茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン（素案）に係る意見への対応等（案）について」、(2)「茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン（素案）について」は、これで終了したいと思います。本日、委員からいただきました御意見につきましては、今後、事務局において整理をしていただくということになりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に、「(3)その他」事務局からございましたらお願いいたします。

(事務局 今後のスケジュールについて説明)

【座長】ただいま、今後のスケジュールについて説明がありました。パブリックコメントをはさみまして、次回、第 3 回目のビジョン懇談会を 10 月 20 日に開催したいということでもあります。

そして、10 月下旬開催予定の県央地域首長懇話会におきまして、共生ビジョンを決定していくということでもあります。このような日程で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【座長】それでは、このような日程で進め、次回、第 3 回目のビジョン懇談会は、共生ビジョンについて、審議することといたします。それまでに、共生ビジ

ョンに係る御意見等がございましたら、事務局に御連絡をお願いいたします。

以上で本日の議事は終了とさせていただきます。御協力ありがとうございました。